

第 1 回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成 21 年 2 月 16 日(月)
14 時～16 時
場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会準備委員会代表として、しなの鉄道(株)代表取締役専務があいさつ

3 委員紹介

各自自己紹介

4 地域公共交通の活性化・再生総合事業について

- ・資料 1 により説明（長野運輸支局）
- ・資料 2 により説明（しなの鉄道経営企画課）

5 協議事項

(1) しなの鉄道活性化協議会(仮称)の規約(案)について

原案(資料 3)のとおり可決し、財務規程及び事務局規程は会長が定めることとなった。

(2) 役員の選任について

次のとおり選任された。

会 長	しなの鉄道(株)	代表取締役専務
副 会 長	上田市	都市建設部長
副 会 長	長野県企画部	交通政策課長
監査委員	小諸市総務部	総務部長
監査委員	千曲市企画部	企画課長

(3) 今後のスケジュールについて

資料 4 により説明し了承を得た。(事務局)

(4) 意見交換

ア 高齢者に対するの思いやりという説明があったが、小諸駅のホームは蒸気機関車の時代のままであり足もとが危ないと感じている。駅舎の改築計画があるが、それに併

せてホームも改修していただきたい。また、昨今海外旅行をする方も多く大きなスーツケースを持ち運ぶことも多いのでエスカレーターも必須と考えている。高齢者や障害者ためにも必要なことである。

今日バリアフリーへの対応は避けてとおれないことであり、駅舎の改築に合わせてホームの高上げとエレベーター設置し、使い勝手のいい駅にしていく予定である。(会長)

イ 軽井沢・平原間から長野方面へ行くために小諸乗換となるが 20 分ほど待つことが多く接続が悪い。使い勝手の良いダイヤにしていきたい。

この春のダイヤ改正で長野・軽井沢間の直通列車を上下合わせて 3 本増やします。しかしながら根本的な原因は軽井沢・小諸間の運行本数が少ないことにあると認識しており、特に夏場観光客も多いことから、今後も増便について調査をしていきたい。(事務局)

ウ 8 時から 9 時にかけて長野駅発しなの鉄道上り列車の間隔が 30 分以上であると待ちきれなくタクシーを使ってしまう。通常は 20 分間隔くらいで運行されているのでこの時間帯もできれば 30 以内の待ち時間としてほしい。

待ち時間が少なくなるようなダイヤ編成を心がけているが、篠ノ井線は乗り入れていること、また、JR ダイヤは新幹線が基本となっていることがありご不便をおかけしていることもあるが、ご指摘の趣旨を踏まえ勉強していきたい。(会長)

エ 輸送人員が減少する中で県外からの人に利用してもらうには軽井沢・横川間を復活することも検討する必要があるのではないかと。調査委託をするとのことなので合わせてこのことも盛り込んでいただきたい。また、駅のにぎわい創出ですが最近では市民団体が踊りなどを披露してくれるので活用を図るべき。先ほど説明のあった成功事例のように鉄道活性化には市民の後押しが必要である。

自治体や鉄道事業だけでは活性化は難しいことから今回協議会を開催させていただいた。是非ともお知恵をお借りして鉄道の活性化につなげたい。(会長)

オ 電車の色をもう少し乗ってみたいという親しみやすい色に変更したらどうか。

同様な意見はいくつか聞いている。経費もかかることでもあるので私どもの大きな研究課題とさせていただきたい。(会長)

カ 広告の無料化というものがあつたが、大賛成である。現在車内の広告というのは少ないですね。広告を出せば人の動きも活発になると思う。「各駅停車」という雑誌が駅で無料配布されておりいつも電車で見ている。(情報提供が乗車のキーワード)

広告の中身が重要になると考えている。長野駅前の某店のように集客力のあるものが必要となると考えている。うちの地域にはこんなものがあるよというようなご提案をいただければ積極的に対応させていただく。(事務局)

キ 輸送人員の推移の資料から平均客単価約 200 円と推測される。また、今後土日の高速道料金が 1000 円になる。これらを考えあわせると、自動車から公共交通にシフトさせるためには、地域の交通という概念から、距離制から脱却して単一運賃にすることも考える必要があるのではないかと。発想の転換が必要である。各市町村ではバスの問題も抱えているので、それらとの乗りつぎも含めて考える必要がある。しなの鉄道だけで物事を考えるという発想から脱却することが必要。

単一運賃については昨年社内で検討した経緯がある。すでにヨーロッパではそのような取組みがなされていると聞いている。しなの鉄道は延長が 65 キロあり全線にわたっての単一運賃は難しいということとなった。しかしながら区間を分けてならば実現の余地もあるので、今後社内で検討を深めていきたい。(事務局)

ク 航空機に張られているキャラクターをラッピングした電車を走らせれば、子供たちや電車マニアが乗るようになるのではないかと。また、須坂の人形博物館では各家庭で不要となった雛人形を寄贈してもらい大規模に展示するようになってから来館者数が 6 万人から 20 万人に増えたそうである。善光寺御開帳とあわせて 1 万円のパック旅行も企画したそうである。しなの鉄道沿線の催しも、社内吊り広告で派手に広告すれば、お客さんが増えて増収につながるのではないかと。また、長野篠ノ井間は電車によっては腰かけられないほど込んでいるときがある。その分の運賃の半分でも JR からもらえばしなの鉄道ももう少し黒字になると思う。

列車の広告も空いている状況であり、地域のイベント・行事等を幅広く PR できる仕組みを考えていきたい。また、沿線自治体の広報誌等にもこれらの情報を掲載方お願いしていきたい。また、篠ノ井・長野間の運賃の問題についてはすでに決着がついているというむきもあり難しいが、このような議論を踏まえ研究できるものについては研究していきたい。(事務局)

ケ しなの鉄道の再生支援については、施設整備面やその他の取組みにより成果が上がっていることを実感している。国土交通省は、がんばる地域を応援するとの方針のもと、従来から輸送高度化補助事業でハード整備を行っており、また、今年度から地域公共交通総合連携計画にあわせたソフト中心の補助制度をスタートさせた。

長野県では、3 月に開業するしなの鉄道の千曲駅や上田電鉄が行っているラッピング電車はこの補助で進められている。別所線では輸送人員が増え、とり分け子供の伸びが 11% 程と成果が上がっている。このようなことも計画作成に際して議論

していただければ有難い。

本日この協議会が設立されたということは、しなの鉄道が公共交通機関として選択・評価されたことのあらわれであり大変喜ばしく思っている。また、来年度調査事業を経て連携計画することになるが、上田市の卓越したリーダーシップと長野県の絶大なるバックアップまた、地域の連携した強力な実行力によって、ぜひ立派な計画を立てていただいて事業を実施していただき、公共交通としてのしなの鉄道の復権につなげていただければ有難いと思っている。

6 その他

- ・ 議会の連絡はメールで行う旨を伝達
- ・ 一部委員から、連絡は文書にしてほしい旨の要望あり

7 閉 会